

2013年4月、横浜初等部を開校予定

「慶應義塾横浜初等部」の学校設置計画書が、8月1日付で神奈川県知事より承認されました。これにより、開校予定の2013年4月に向けて、準備作業は更に次の段階に進みます。

横浜市青葉区の開校予定地は、最寄り駅が東急田園都市線江田駅で、義塾のどのキャンパスからも1時間前後の位置にあります。しかも、駅からは、繁華街等を通ることなく、子供の足でも徒歩10分で着く、小学校に最適な恵まれた立地です。敷地も広く、将来、友達と共に昆虫を探しまわったり、スポーツに思う存分身体を動かしたり、活発な生徒たちの歓声が聞こえることでしょう。校舎も、教職員の温かな眼差しの中で生徒が過ごせることを意図した全体構成の中に、充実した図書館、音響の優れた講堂等を備えた設計で、9月に着工しました。カリキュラムや募集の概要等の具体的な事柄は、神奈川県知事から設置認可を受けた後の、2012年夏頃にお知らせできるようになります。教育の柱、目指すもの等の開校の趣旨は既にホームページに掲載しておりますので、ご覧いただければと思います。(http://www.yokohama-e.keio.ac.jp/)

横浜初等部の第1期生が社会の第一線で活躍する頃には、21世紀も半ばに差し掛かっています。その頃には、少子高齢化の進行で社会の構造が大きく変わっているだけでなく、さまざまな価値観・利害が錯綜する複雑で変化の激しい時代になっていることでしょう。そのますます困難な時代に、先導者としてさまざまな困難に粘り強く取り組み解決していけるような能力、

資質の基礎を十分に育む必要があります。しかも、今の子供たちを取り巻く環境も変化してきており、例えば、成長に大切な役割を持つ幼少期の遊びの体験も、概して貧弱化してきています。従って、私たちは、子供たちが社会に出て活躍する先の時代と、子供たちを取り巻く今の環境の、両方を共に見つめながら、新しい教育を創り出していかなければならないと考えています。その際、小学校の6年間は、人間としての基本的な資質を育むかけがえの無い時期ですから、新しさを殊更に銜うことなく、普遍的な教育を丁寧に行うことが大切なのは言うまでもありません。

今日の一貫教育の制度が確立した1898(明治31)年、その趣旨を「(幼稚舎から大学までの)十六年の苦学中には、一種の気風を感受すべし、即ち慶應義塾風にして、その塾風の人には有用なるや否やは兎も角も、之を解剖すれば、則ち独立自由にして而も実際精神より成るを発見すべし」(「慶應義塾学事改革の要領」)と説明しています。開設準備室では、横浜初等部がこの16年に及ぶ一貫教育の課程の新たな源流にふさわしい学校となるよう、準備を進めています。

(横浜初等部開設準備室長 山内慶太)



完成予想図